

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 30 日現在

機関番号：12603

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25580087

研究課題名(和文)ロシア所蔵資料の実見調査に基づく西夏文字草書体の体系的研究

研究課題名(英文) Systematic Studies on the Tangut Script in Running Form, Based on the Research of Original Tangut Materials Preserved in Russia

研究代表者

荒川 慎太郎 (Arakawa, Shintaro)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：10361734

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：荒川(主に仏典担当)・佐藤(主に官文書担当)・小野(主に法律文書担当)は、ロシア科学アカデミー東洋文献研究所所蔵、西夏文字草書体各種資料に関する実見調査と研究を行った。また荒川は敦煌石窟に書かれた草書体西夏文題記なども調査した。

各メンバーは各種草書体文献の歴史学的・言語学的研究を発表した。西夏文字草書体字典の雛型を含むいくつかの論文を、研究成果報告書「ロシア所蔵資料の実見調査に基づく西夏文字草書体の体系的研究」にまとめ、これを2016年3月に刊行した。将来的には本研究の成果を活かし、西夏研究に資する字典・資料集の公刊に努めたい。

研究成果の概要(英文)：Arakawa (in charge of Buddhist texts), Sato (official documents), and Ono (law documents) researched some materials written by the Tangut script in running form, preserved in Institute of Oriental Manuscripts, RAS, St. Petersburg, Russia. And Arakawa investigated the Tangut inscriptions written in Dunhuang caves, Gansu, China.

Each member wrote the historical and linguistic theses and compiled the report paper "Systematic Studies on the Tangut Script in Running Form, Based on the Research of Original Tangut Materials Preserved in Russia" (published in March 2015) which includes the prototype of the 'Tangut cursive-script dictionary'. We will utilize the results of this study in future, and publish the script-dictionary or data-base.

研究分野：言語学

キーワード：西夏文字 草書体 西夏語 西夏史 西夏語文献 文字論

1. 研究開始当初の背景

(1) 西夏語は 11～13 世紀に中国西北部に存在した西夏国の言語である。話者は絶えたものの、西夏文字で記された資料が多数残り、文字を解読・判読することによって、その言語や歴史を知ることができる。20 世紀末のソ連崩壊後、ロシア所蔵の西夏文字文献の閲覧・調査が可能になったこと、中国の研究環境が劇的に向上したことから、西夏に関する各種の研究は進展した。

(2) 西夏語文献は、写本と刊本という紙資料が大半を占める。西夏文字は画数も多く複雑な文字体系であるが、印刷物(刊本)は比較的判読しやすい。一方写本は、楷書体で整然と書かれているものばかりでなく、行書体から時に草書体に近い書体で書かれた、解読・判読に支障の多い資料が含まれる。研究開始当初、楷書体資料の判読と研究はすでに一定の成果を見せており、判読しにくい「草書体」資料の研究が求められていた。

2. 研究の目的

(1) 研究の目的の一つは、西夏語・西夏文字自体を研究し解明することである。ある西夏文字の楷書体が、どのように行書体・草書体となるか、その「くずし方」の規則性を考察する。また、くずし字を解読して読んだ西夏文から、西夏語の言語学的研究を進める。

(2) 西夏語の公文書・法律文書は、草書体によるものも少なくない。印刷物(刊本)と異なり、1 点のみという資料も多い。これらの解明が、西夏の歴史、政治、行政を解き明かすものであるのは間違いないが、難解な草書体資料がそれを妨げている。草書体から楷書体資料を復元するなどし、限られた研究期間ではあるが、歴史研究に資する資料の読解も進めることも目的としていた。

3. 研究の方法

(1) 前述のように、西夏文字の草書体は、印刷物かつ楷書体のような資料に比べ、格段に判読しにくい。草書体資料の中には既存の図録などに収録されているものがあるものの、実物を閲覧・調査しなければ詳細な研究はできない。そのため、一次資料については海外渡航し、現地の研究機関に所蔵されている文物を調査した。例えば、荒川は、ロシア科学アカデミー東方文献研究所での西夏文文献調査(2014年8月10日～8月18日、2015年2月1日～2月16日)など、佐藤は、同研究所での西夏文文献調査(2014年2月24日～3月8日)、敦煌莫高窟・瓜州榆林窟での西夏文題記調査(2015年12月24日～12月31日)などを行った。

(2) 西夏文字草書体資料は判読も困難だが、データ化し、提示することも難しい。常に、草書体に対応する楷書体を示す必要がある。

メンバーは研究を発表・刊行する際、原資料図版の掲載と、楷書化した録文の提示を心がけた。一方、頻出する文字、西夏語彙については、楷書体・草書体の対照資料を各自が作成しつつ、解読を進めた。

4. 研究成果

(1) 西夏研究の盛んな中国ではまさにこの数年、草書体で記された文献の研究、草書体自体に関する考察が発表・刊行されている。これは本科研の課題設定が、時期的にも国際的にも妥当なものだったことを示している。

(2) 例えば直近に公表された、西夏文草書に関する総括的な論文に、史金波(2015)がある。「西夏文草書の使用範囲は比較的広く、現存する西夏文草書文献の種類は数多く、歴史・法律・文学・暦法・医学・社会文書・韻書から古典訳、仏典等に及び学術的価値が高い」(史2015:7)とされる。同論文では、漢字・文字史からみた西夏文草書の位置づけ、西夏文草書の誕生、そして各分野の資料と研究史が紹介され、西夏文草書の形上の特徴が述べられる。本課題と方向性の近い研究、草書体の文字自体を扱った、趙天英(2015)はロシア所蔵西夏文草書社会文書から草書体の規則性を求めた興味深い論考である。草書を1.文字部品の省略化,2.筆画の連続,3.筆画の共通化,4.文字構成の変更,5.字形そのものの抽象化変形、の5種に分類する。また代表的な部首の草書体字形をまとめるなど、有益な研究を行っている。

(3) 研究代表者荒川慎太郎、研究分担者佐藤貴保、研究協力者小野裕子の3名は、専門とする個別の研究を進めつつ、成果報告書、日本学術振興会科学研究費補助金挑戦的萌芽研究(平成25～27年度 課題番号25580087,代表:荒川慎太郎)「ロシア所蔵資料の実見調査に基づく西夏文字草書体の体系的研究(Systematic Studies on the Tangut Script in Running Form, Based on the Research of Original Tangut Materials Preserved in Russia)」を刊行した。以下、その内容を要約し、研究成果として報告する。

(4) 荒川は「序」において、近年の草書体研究の動向と報告書の構成・内容を述べた。続いて、荒川「河西地域石窟の西夏文題記に関する覚書(4)」は、敦煌莫高窟ほかの西夏文題記調査記録の一部である。荒川は2010年、「西夏時代の河西地域における歴史・言語・文化の諸相に関する研究」の成果報告書において、敦煌莫高窟、安西榆林窟・東千仏洞に記される西夏文題記・銘文についての資料集「莫高窟・榆林窟・東千仏洞西夏文題記訳注」を作成した。その後も2010年、2011年、2012年、莫高窟ほかを訪れて調査を続け、多くの西夏文題記を再実見したのに加え、既存の調査報告に無い題記を発見すること

ができた。その結果を「河西地域石窟の西夏文題記に関する覚書(1~3)」「『東ユーラシア出土文献研究通信』(1~3)、基盤研究(A)「シルクロード東部の文字資料と遺跡の調査 新たな歴史像と出土史料学の構築に向けて」(代表:荒川正晴))としてまとめた。その後2014年12月に莫高窟・榆林窟、東千仏洞を、2015年12月に莫高窟・榆林窟を訪れ、既見・未見の石窟を調査できた。多くの西夏文題記を再読し判読字数を増やしたことに加え、未報告題記も発見できた。題記にはくずし字に近い難読資料も含まれるため、この報告書に研究成果として掲載した。荒川「西夏の「砲」設計図について」は、草書体西夏文字で書かれた興味深い「設計図」に関する論考である。原資料はロシア、東方文献研究所に1点だけ所蔵される貴重な資料で、筆者が数年調査を行っていた。これは従来楽器の設計図とされていたが、草書で書かれた数字や部品名を判読した結果、中国の兵器「砲」(投石器の一種)であることがわかった。草書の判読が歴史研究にも活用できることを示した一例となろう。荒川「2014年における『文字鏡』西夏文字フォントの修正と追加について」は、市販の外字フォントセット『今昔文字鏡』「西夏文字」部分の修正・追加作業に監修として関与した荒川の作業報告的な内容である。この西夏文字フォントは楷書体であるが、同フォントは草書体を扱う本研究はもとより、近年の日本の西夏関係に関するほとんどの論文で利用されるため、常に正確を期す必要がある。そのため、いかなる監修作業が行われ、どのように修正に反映させたかを報告した。

(5) 小野「西夏語草書体文献『亥年新法』巻四の条文解説・復元 - 第七条~第十条 -」は、史(2015: 10)でも注目される法律文書中の草書文献『亥年新法』を扱う。同資料は、判読の困難な草書で書かれている上、漢語対訳の無い西夏独自の法律文書である。難解な判読と翻訳作業を、数種の文献の文字を比較対照することで可能にした力作である。これまでに同種の資料の無かった、「複数の草書体の対照」形式の付属資料も高い価値を有する。

コード番号 楷書字形 甲種 乙種 推定音 意味

0089  'chya: 「上に、
於いて」

図1 資料の一部抜粋

(6) 佐藤「西夏文草書体官文書の解読に向けて - 法令集を用いた崩し字用例の収集と分析 -」は、官文書の多くに使われている草書体の西夏文の解読が進んでいないことを指摘し、軍事や行政に関わる術語や定型句が草書体でどのように書かれるかの用例を求めた。具体的には、西夏法令集『天盛改旧新定

禁令』の刊本と写本を比較し、草書体表記の実例を集めて解説し、次にいくつかの官職名の草書体字例を、官文書の実例とも比較している。稿末には2種類の有用な資料も付される。

(7) 本科研でのこうした研究活動によって、西夏の歴史、言語、文字、仏教などの研究に一定の貢献をなす成果が得られたものの、残された課題も少なくない。草書体西夏文字のヴァリエーションは当初の想定を超える多様性を見せたため、草書体資料の作成は限定的なものに留まった。草書体西夏文字については今後も継続的に資料を調査し、用例を集めたい。将来的には本研究の成果を活かし、西夏研究に資する字典・資料集の刊行に努めたい。

<参考文献>

史金波、「略論西夏文草書」、杜建録主編『西夏学』第11輯(上海古籍出版社) 2015、7-20
趙天英、「西夏文社会文書草書結体特色初探」、『寧夏社会科学』2015年第2期、2015、121-125

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

SATO Takayasu, “Defense Challenges for the Capital of the Xi Xia (Tangut) Kingdom: Evidence from Research on Khara-Khoto Documents from around 1210”, *Central Asiatic Journal*, 査読有、vol. 57、2015、pp. 201-208

ONO Hiroko, “The Date and Purpose of the Tangut military document *Zhen guan yu jing tong* 貞觀玉鏡統”, *Central Asiatic Journal*, 査読有、vol. 57、2015、pp. 131-138

ARAKAWA Shintaro, “On the design of a “Trebuchet” in the Tangut Manuscript of IOM, RAS”, *Written Monuments of the Orient*, 査読有、2015 (2)、2015、pp. 21-30

荒川慎太郎、「西夏末期における仏典の奥書について」、研究成果報告書(学術助成基金助成金 基盤研究(C)研究代表者:佐藤貴保)「西夏語文献から見た、モンゴル軍侵攻期における西夏王国の防衛体制・仏教信仰の研究」、査読無、2015、pp. 47-89

小野裕子、「西夏語文献『亥年新法』巻4条文の復元」、研究成果報告書(学術助

成基金助成金 基盤研究(C)研究代表者：佐藤貴保)「西夏語文献から見た、モンゴル軍侵攻期における西夏王国の防衛体制・仏教信仰の研究」、査読無、2015、pp. 27-45

佐藤貴保、「モンゴル帝国軍侵攻期における西夏王国の防衛態勢—1210年に書かれた行政文書の解読を通して—」、『比較文化研究』、査読無、第25号、2015、pp. 83-95

ARAKAWA Shintaro, “Re-analysis of the Tangut verb phrase based on a study of the word order”、『西夏学』(杜建録主編、上海：上海古籍出版社)、査読無、第9輯、2014、pp. 290-297

荒川慎太郎、「死言語のフィールドワーク - 話者の絶えた言語を調査する - 」、「人はみなフィールドワーカーである」(東京外国語大学出版会)、査読無、2014、pp. 220-237

佐藤貴保、「西夏王国における交通制度の復原—公的旅行者の通行証・身分証の種類とその機能の分析を中心に—」、関尾史郎(編)『環東アジア地域の歴史と「情報」』(知泉書院)、査読無、2014、pp. 119-149

[学会発表](計 15 件)

荒川慎太郎、「西夏文字草書体に関する近年の研究について」、2015年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会、2016/3/26、京都大学文学研究科附属ユーラシア文化研究センター(京都)

荒川慎太郎、「関于『西夏文金剛經研究』」(通訳：魯宇讓)、朔方論壇2015年(寧夏大学西夏学研究院主催)、2015/12/14、銀川(中国)

ARAKAWA Shintaro, “On some uses of the Tangut affix ¹kl:”、第四届西夏学術論壇暨河西历史文化研討会、2015/8/16、張掖(中国)

荒川慎太郎、「西夏文『金剛經纂』の成立過程について」、遼金西夏史研究会第15回大会、2015/3/21、大阪大学(大阪)

佐藤貴保、「カラホト出土文献から見た13世紀初頭の西夏の動向」、遼金西夏史研究会第15回大会、2015/3/21、大阪大学(大阪)

ARAKAWA Shintaro, “Linguistic Studies Based on the Tangut Materials in Russia”、International Workshop: Central Asian Documents Preserved in

the Institute of Oriental Manuscripts, Russian Academy of Sciences、2015/3/24、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(府中)

SATO Takayasu, “Studies of the Xixia Society Based on the Tangut Materials in Russia”、International Workshop: Central Asian Documents Preserved in the Institute of Oriental Manuscripts, Russian Academy of Sciences、2015/3/24、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(府中)

ARAKAWA Shintaro, “Linguistic Remarks in the Tangut Inscriptions from Dunhuang”、International Conference on Inscription Studies、2014/08/12、Ulaanbaatar (Mongolia)

荒川慎太郎、「西夏文字の各種書体について」、国際ワークショップ「東アジアの非漢語古語文献：書体研究の展望」(International Workshop - Ancient Documents Written in Non-Chinese Language in East Asia: Prospect of the Studies on Handwriting Style)、2014/3/21、大谷大学(京都)

荒川慎太郎・佐藤貴保、「莫高窟・榆林窟西夏文題記再考」(佐藤が報告)、法蔵敦煌文献輪読会、2013/12/21、蘭州(中国)

ARAKAWA Shintaro, “Re-analysis of the “double-prefix” in the Tangut verb phrase”、西夏語文献解読研究成果発表会、2013/12/19、台北(台湾)

ARAKAWA Shintaro, “The reproduction of the Tangut ‘Sling’ based on the plan with explanations in Tangut”、Milletlerarası El yazmaları Toplantısı(民族間古文書会議)、2013/10/22、Istanbul (Turkey)

荒川慎太郎、「内蒙古博物院、考古所収蔵西夏文文献」(モンゴル語訳：吳英哲)、2013/09/27、呼和浩特(中国)

佐藤貴保、「西夏の官文書の書式について—カラホト出土文書と法令規定との対応関係の考察を中心に—」、ワークショップ「ユーラシア東部地域における公文書の史的展開—胡漢文書の相互関係を視野に入れて—」、2013/9/22、大阪大学(大阪)

ARAKAWA Shintaro, “Re-analysis of the Tangut verb phrase based on a study of the word order”、第三届西夏学国際学術論壇暨王静如先生學術思想研

討会、2013/09/20、北京（中国）

〔図書〕（計 1 件）

荒川慎太郎、松香堂書店、『西夏文金剛
経の研究』、2014年、序 xii pp. + 443 pp.
+ 図版 106 pp.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

荒川 慎太郎 (ARAKAWA, Shintaro)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文
化研究所・准教授
研究者番号：1 0 3 6 1 7 3 4

(2) 研究分担者

佐藤 貴保 (SATO, Takayasu)
盛岡大学・文学部・准教授
研究者番号：4 0 4 0 3 0 2 6

(3) 研究協力者

小野 裕子 (ONO Hiroko)
岡山理科大学附属中学校・教諭